国立科学博物館

賛助会費を使った活動(2019年度)

2019年度におきまして、賛助会員の皆様にご支援をいただきました賛助会費により、様々な博物館活動を実施することができました。厚くお礼申し上げます。

ここに深く感謝の意を表しますとともに、活動内容の詳細をご報告させていただきます。

【地域博物館等と 連携したイベント】

● 岩手県内の2か所、熊本県内の4か所の博物館等と連携して、コラボミュージアム [生命のれきしー君につながるものがたりー] を実施いたしました。









【標本資料の製作・受入・保存・修復】

- 博物図譜の修復
- ミナミゾウアザラシのはく製「大吉」の修復
- 動物園で死亡した個体の標本化
- ガラス乾板の保存処理





~国立科学博物館の賛助会員制度について~

国立科学博物館賛助会は、当館事業の趣旨にご賛同いただいた皆様(会員)からの当該事業へご支援(会費)をいただく、 1年単位の寄付会員制度です。個人会員と団体会員がございます。ご支援により、青少年の自然科学等への興味・関心の向上に関する事業、地域博物館等と連携したイベント、標本資料の製作・購入・保存・修復等の事業を推進しております。 今後もより多くの方にご賛同いただきたく、引き続きご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。 入会手続き・優待など、くわしくは、「賛助会員入会のご案内」、当館ホームページをご覧ください。



https://www.kahaku.go.jp/about/donation/patronage/index.html 国立科学博物館 関助会担当





標本資料の製作。受入。保存。修復

博物図譜の修復

当館が所蔵する「博物図譜」は、主に幕末から明治期にかけて、動物や植物などを科学的視点から描いたものです。 対象物の細部にまで目を配って彩色豊かに描かれ、名称や産地、入手方法などが記載されているものもあり、当時 の貴重な情報を得ることができます。このため博物図譜は、学術的資料と絵画としての価値をあわせもつものである といえますが、当館の長い歴史において保存環境を維持することが困難であった不幸な時代があり、破損・汚損した ものの修復や永続して保存するために処理が必要なものがあります。今回もこれまでと同様に、色落ちを防ぐ剥離止 め、カビやほこりの除去、資料の補強のための裏打ちや折れ当て等の修復作業を行いました。(修復件数 139 件)

--【博物図譜「シビマグロ」絵図 修復の様子】





れ箇所を補強する様子



打ちの様子



打ち終了後

ミナミゾウアザラシのはく製「大吉」の修復

2010 年「大哺乳類展」、2015 年「海のハンター展」、そして 2019 年「大哺乳類展2」と、特別展でとても人気を博した標本の1つ、ミナミゾウアザラシのはく製「大吉」。現在では、非常に入手困難な貴重な標本です。今回の修復作業により、経年劣化による毛皮のはがれ・亀裂等が直り、きれいな姿に戻りました。





写真左 (修復前)、写真右 (修復後)

動物園で死亡した個体の標本化

今年度も賛助会費の支援によって、多くの動物園死亡 個体を当館で受け入れ、骨格標本として作製すること ができました。その中には、アフリカゾウ、キリン、ヤ マシマウマといった、輸送や標本作製が難しい大型種 が含まれています。これらは研究用の標本として利用 されることとなります。中でも、アフリカゾウは多摩動

物公園で11月26日に死亡した「チーキ」という43歳のメス個体で、当館としては3点目となる貴重な標本です。



アフリカゾウの頭骨 (上顎のかみ合わせの面)

ガラス乾板の保存処理

「ガラス乾板」とは、フィルムで写真撮影する前に使われていた撮影技術の感光素材で、日本では主に幕末から戦前まで使われていたものです。「ガラス乾板」をスキャナーで読取り、デジタル化する保存処理作業に賛助会費を活用させて頂きました。今回ご紹介する2つの画像は「ガラス乾板」に写されていた戦前の当館の様子です。(処理枚数 5790枚)



建築中の上野本館(日本館) <昭和4年5月>



館内の様子 <昭和 13 年 11 月>



地域博物館等と連携したイベントの開催

国立科学博物館では、各地の博物館等と連携して、当館の標本を活用した展示や、講演会や学習プログラムを行っています。 これらの事業を通じて、地域の博物館等を支援し、人々に地域の自然などに興味をもってもらうことにより、広く自然科 学を振興することを目的としています。

2019 年度は、2016 年に台風 10 号の豪雨被害を受けた岩手県と、2016 年態本地震による地震被害を受けた熊本県において、 震災復興として「生命のれきしー君につながるものがたりー」の巡回展示を実施しました。

●国立科学博物館・コラボミュージアム in 阿蘇

会場: 阿蘇火山博物館 2019年10月8日(火)~11月24日(日)





ボランティアガイドによるお手伝い

●国立科学博物館・コラボミュージアム in くまもと

会場:能太博物館 2019年12月3日(火)~2020年1月26日(日)





イベント 「ぬりえで復元! ステゴサウルス | の様子

●国立科学博物館・コラボミュージアム in うき

会場: 熊本県博物館ネットワークセンター 2019年8月3日(土)~9月29日(日)



研究者からレクチャーを受ける学芸員



イベント [化石レプリカを作ろう!] の様子

■国立科学博物館・コラボミュージアム in みふね

会場: 御船町恐竜博物館 2020年6月2日(火)~7月26日(日)

※新型コロナウィルス感染症拡大防止のための臨時休館により、 従来の会期予定2020年3月20日(金・祝)~5月10日(日)から変更



大切に梱包して能本博物館から御船町恐竜博物館へ



人気展示の「ディメトロン」

三陸防災復興プロジェクト 2019 三陸ジオパーク ワクワクフェスタ

■国立科学博物館・岩手県立博物館・コラボミュージアム

岩泉会場:岩泉町小本津波防災センター 2019年6月2日(日)~6月16日(日)



来場者と学芸員が対話している様子

岩泉町で採集された P/T 境界層 (黒色粘土岩)

三陸防災復興プロジェクト 2019 三陸ジオパーク ワクワクフェスタ

●国立科学博物館・岩手県立博物館・コラボミュージアム

大船渡会場:大船渡市立博物館 2019年6月22日(+)~7月15日(月)







岩手県で採集されたモシリュウの上腕骨の一部

コラボミュージアム

「牛命のれきし 一君につながるものがたり一

地球が誕生してから 46 億年。 私たち現代の人間が誕生する までの間の、地球やそこに住む生き物たちが歩んできた道の りを示す、岩石、化石、そして、骨格などの標本・資料とと もに解説した展示です。コラボミュージアムでは各地の博物 館の標本等も活用しながら、地域の博物館等と連携して展示 を作り上げています。